



■ 児童発育・発達支援センターについて

児童発育・発達支援センターは、児童福祉法第43条に規定する児童発達支援センターとして、本市における発育発達に不安のあるこどもやその保護者、またこどもに関わる支援者などに対し支援を行う地域の発達支援に係る中核施設です。改正児童福祉法が令和6年4月より施行され、児童福祉法において規定する児童発達支援センターは、地域の障害児の健全な発達において中核的な役割を担う機関として、障害児を日々保護者のもとから通わせて、高度の専門的な知識及び技術を必要とする児童発達支援を提供し、あわせて障害児の家族、指定障害児通所支援事業者その他の関係者に対し、相談、専門的な助言その他の必要な援助を行うことを目的とする施設とされています。

■ 地域障害児中核支援拠点について

ふじみ野市立児童発育・発達支援センターは、ふじみ野市における「**地域障害児支援体制中核拠点**」として登録されています。

■ 地域障害児中核支援拠点とは

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定において、児童発達支援センターの中核機能の発揮を促進する観点から、各市町村において、地域の中核的役割を果たす機関として位置付けられ、専門人材を配置して地域の関係機関と連携した支援の取組を進めるなど、**4つの機能**（①幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能②地域の障害児支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能③地域のインクルージョン推進の中核機能④地域の発達支援に関する入口としての相談機能）を発揮する児童発達支援センターについて、その体制や取組に応じて段階的に評価を行う「中核機能強化加算」が創設されました。



■ 児童発達支援センターに求められる4つの機能

◆ 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

こどもの発達全般や障害特性・行動特性等をアセスメントし適切なアプローチを行うとともに、成人期を見据え乳幼児期から段階的に必要なアプローチを行う視点、障害の有無に関わらずこどもの育ちに大切な遊びを通じて支援する視点、子育て支援の観点を持ちながら、幅広くどのようなこどもも受け入れることはもとより、地域の中で受入れ先を確保するのが難しい等、高度な専門性に基づく発達支援・家族支援が必要な障害のあるこどもや家族にも、必要に応じ多職種で連携しながら適切な支援を提供する機能。

◆ 地域のインクルージョン推進の中核機能

保育所等訪問支援やスーパーバイズ・コンサルテーションにより、地域の保育所等における障害のあるこどもの育ちの支援に協力するとともに、障害のあるこどもに対する保育所等の支援力の向上を図る等、保育所等への併用通園や移行を推進したり、広報や会議、研修等の機会を活用したインクルージョンの重要性・取組の発信・周知を進めていく機能。

◆ 地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能

地域の障害児通所支援事業所に対して、地域の状況、地域で望まれている支援内容の把握、事業所との相互理解・信頼関係の構築を進め、対応が困難なこども・家族をはじめとする個別ケースへの支援を含めた事業所全体への支援を行っていく機能や、事業所向けの研修・事例検討会等の開催、地域における事業所の協議会の開催や組織化等を通し、地域の事業所の支援の質を高めていく機能。

◆ 地域の発達支援に関する入口としての相談機能

発達支援の入口としての相談に適切に対応し、必要に応じ適切な支援につなげる観点から、障害児相談支援の指定又はそれに準ずる相談機能を有することを基本としつつ、乳幼児健診や親子教室等の各種施策及びその実施機関等とも適切に連携しながら、家族がこどもの発達に不安を感じる等、「気付き」の段階にあるこどもや家族に対し、丁寧に発達支援の入口としての相談に対応していく機能。



■ 児童発育・発達支援センターにおける障害児の中核支援の取り組み【令和6年度】

◆ 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

◇ 児童発達支援事業

多職種（言語聴覚士・作業療法士・心理担当職員・保育士・児童指導員・栄養士・調理師等）を配置し、各職種連携を図りながら、本人支援・家族支援・移行支援・地域支援等の児童発達支援を実施しています。また利用するこどもの保護者との会を開催し、専門職によるこどもへの関わり方の助言や、保護者同士のつながりを図る機会を提供しています。

【事業実績】 単独通園利用延べ人数 **3,279人**
親子通園利用延べ人数 **260人**

◇ 専門個別支援事業

言語聴覚士及び作業療法士が、発育発達に不安のある就学前のこどもを対象に、それぞれの専門的視点により、こどもの発達特性等の見立てや訓練を行い、こどもと保護者への助言等を行うなど、寄り添いながら支援します。

【事業実績】 言語聴覚士利用延べ人数 **382人**
作業療法士利用延べ人数 **303人**

◇ 親子支援事業(さくらんぼ教室)

発育発達に不安のある3歳未満の無所属のこどもとその保護者を対象に、発達に係る関わり方等を寄り添いながら支援します。

【事業実績】 利用延べ人数 **98人**

◇ 専門発達相談事業

臨床心理士または公認心理師による心理検査及び小児科医による見立てにより支援方法を検討し、その後、こども家庭センター母子保健担当や障がい福祉課等の関係機関にてカンファレンスを行い、こどもと保護者へ必要な支援を提案しています。

【事業実績】 対応児童数 **50人**

◇ 巡回相談支援事業(小学期対象)

発育発達に不安のある小学期のこどもに係る相談の増加から、市内小学校へ臨床心理士等の専門職が訪問し、教諭等に対し発育発達に不安のあるこどもへの関わり方等を助言する「支援者への支援」を行います。

【事業実績】

訪問対象校 **2校** 訪問数 **4回**
対応児童数 **28人**



◆ 地域の障害児通所支援事業所に対する スーパーバイズ・コンサルテーション機能

◇ 地域支援事業（障害児通所支援事業所連絡会）

市内にある障害児通所支援事業所を対象に、事業所における発達支援に係る知識及び援助技術の向上を図ることを目的に事業所連絡会を開催し、必要な助言を行うほか、事業所間の意見交換の場を構築し、地域の発達支援の向上を図っています。

【事業実績】 連絡会開催数 3回(6月・11月・3月)

- ・児童の記録及び情報共有に係る研修(講師：国立リハビリテーションセンター秩父学園)
- ・こどもの虐待防止研修(講師：ふじみ野市こども家庭センター)・事業所間意見交換

◆ 地域のインクルージョン推進の中核機能

◇ 巡回相談支援事業

市内就学前児童施設を対象に、臨床心理士等の専門職が訪問し、保育士や幼稚園教諭に対し発育発達に不安のあるこどもへの関わり方等を助言する「支援者への支援」を行います。

【事業実績】 訪問対象数：28か所 訪問数：91回 対応児童数：402人

◇ 保育所等訪問支援事業

訪問支援員が障害福祉サービスの支給決定を受けたこどもの所属先を訪問し、こどもへの直接支援及び助言を行います。

◇ 地域支援事業(こどもの発達支援講演会・就学説明会)

市民や子育て中の保護者及び支援者を対象とした発達支援に係る研修や講演等の開催による知識・普及啓発、また就学前から就学期へのライフステージの移行に係る保護者の不安等に寄り添いながら支援する就学説明会を開催します。

【事業実績】 こどもの発達支援講演会 2回(11月・2月) 就学説明会 1回(5月)



◆ 地域の発達支援に関する入口としての相談機能

◇ 発達総合相談支援事業

発達総合相談支援事業では、保健師、社会福祉士及び臨床心理士(公認心理師)を配置し、それぞれの専門的な見地から、発育発達に不安のある子どもやその保護者、子どもに関わる支援者からの相談に寄り添いながら支援します。

新規相談受理事件数 361 件 (就学前児童 233件 小学生103件 中学生22件 高校生3件)
相談総対応件数 1,505 件 (就学前児童 1,042件 小学生380件 中学生70件 高校生その他13件)

◇ 障害児相談支援・計画相談支援事業

児童発育・発達支援センターにおける児童発達支援を利用することもその保護者を中心に、利用前のアセスメントの実施やサービス利用に係る調整及び障害児相談支援利用計画を作成し、その後サービス利用状況等から子どもの心身の状況等のモニタリングを行いながら、必要な支援を実施します。

相談対応延べ件数 1,076件

◆ その他

- ・ふじみ野市自立支援協議会こども部会に参画しています。
- ・ふじみ野市要保護児童対策地域協議会に参画しています。
- ・ふじみ野市児童発育・発達支援センター運営審議会を設置し、当該審議会へセンター事業報告等を行い、学識経験者、医師、公募による市民その他市長が必要と認めた者から評価を受けています(審議会開催実績:年5回)。
- ・障害児通所支援(児童発達支援等)について、**サービス評価(保護者、従事者等)**を行い、年1回以上公表しています。
- ・児童発達支援事業の**療育プログラム**を公表しています。
- ・各事業の職員が専門分野における研修に積極的に参加し、また事業所内研修を行う等により、支援技術の向上を図っています。